

農山漁村の活性化に向けた学生の取組について

- 農山漁村の活性化において若者の活力は極めて重要
- 地方創生・課題解決に問題意識のある学生に農業・農村面に目を向けてもらうことが有効



「農山漁村」経済・生活環境創生プラットフォーム学生専門部会

○学生専門部会の趣旨

本専門部会では、学生に農業・農村面に目を向けてもらい、より多くの学生の参入を促進するために、以下の点をまとめることを目的とする。

- 学生による農山漁村への貢献方法の類型化及び（学生にとっての）メリットの整理
- 多様なステークホルダーによる学生の活動支援を促進するための支援メリットの整理、学生×中間支援組織×地域の連携モデルの構築
- 学生の活動をより継続可能かつ効果的なものにするために必要な支援策の整理



第1回専門部会(9/25)

学生・地域双方のメリットと課題

	メリット	課題
学生	<p>1. 自己成長・キャリア形成 多世代とのコミュニケーションによる自己成長／一次産業・地域事業者の理解を通じたキャリア再設計への示唆の獲得</p> <p>2. 地域とのつながり・交流 農家や地域の方との充足感を持ったつながり／農作業や地域行事へ参加することで得られる感謝の気持ちや達成感</p> <p>3. 現場理解・学び 高齢化や担い手不足など地域の実情の現場レベルでの理解／生産現場を知ることによる食のルーツを知る機会</p> <p>4. 精神的・身体的リフレッシュ 自然豊かな環境で身体を動かすことで得られる気分転換／農産物の成長や未経験の地域行事参加へのわくわく感</p>	<p>1. 地域側の負荷を具体的に想像しきれない 人手不足の解消になると関わり始めたが、事前の用意や維持管理などはすべて地域の方にお世話になる状態になってしまう</p> <p>2. 地域課題を汲み取れない 一般的な課題をイメージし、一方的な考えで活動を実施してしまい、単純な労働力に限られた活動・成果になる傾向がある。双方でより良い改善方法などが明確でないとシナジーが発揮しきれずに単発で取組が終了してしまう</p>
地域	<p>1. 地域の活性化・モチベーション向上 高齢化地域における若者の活力の感化／世代を越えた交流による刺激や学びによるモチベーション向上</p> <p>2. 労働力・人手不足の解消 農繁期や慢性的な人手不足への労働支援</p> <p>3. 地域文化の維持・継承 行事参加による地域文化の継続遂行（例：神輿の担ぎ手）</p>	<p>1. 協働の際の負荷が大きい 農機具の準備、食事や寝泊まりする場所、教える手間などの負担がかかり、活動維持が非常に難しい</p> <p>2. 地域の課題を伝えられない 本来解決したい課題を伝えるタイミングがない、または遠慮して伝えきれないことや、言語化できていないことで互恵関係が発展しない</p>

▷ 課題が解決されなければ、モチベーションの維持が困難になる等、学生と地域との協働の継続性に影響を及ぼす